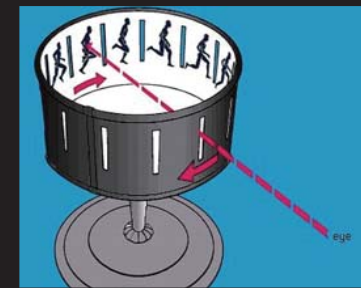


ゾエトロープの中の世界を体験する
インタラクティブコンテンツ
Zoetrope+

マッピングによる映像の投射、
キネクトによる体での操作
センターの光に入る事から始まります。
ゾエトロープの中の世界を是非体感く
ださい。



ゾエトロープ (Zoetrope) とは ...



静止画を素早く入れ替えることで、あたかも動いているかのように見せる器具のこと。
側面に縦にスリットの入った円筒形をしていて、スリットとスリットに挟まれるように、内側の面に個々の静止画が連続して描かれています。
円筒を回転させ、一方のスリットから反対側の内側の絵を覗き込むことで、絵が次々と入れ替わり、まるで動いているように見る事ができます。

今回の展覧会はインタラクティブ・メディアアート作家の吉岡さんと、映像クリエイターの竹野さんによるコラボ展「Zoetrope+」です。
展示作品はゾエトロープという回転覗き絵と、そしてそれをヒントに制作されたメディアアートの2種類がありました。
会場入口のコーナーに、円筒状のゾエトロープ6作品が天井から吊るして展示されていました。この作品の鑑賞方法は、まず本体を手で回転させ、本体側面に等間隔に入っているスリットから内側の絵を覗き込みます。すると連続して配置されている絵が、回転によってアニメーションのように動いて見えるのです。
会場を仕切るパーティションの奥には、外からの光を遮断して暗くなっており、ゾエトロープの中の連続した静止画像がゆっくりと回る様子が映し出されています。その映像のちょうど正面にスポットライトに照らされた床の光の中に入って身体を動かすと、センサーが動きを感じて映像の回転スピードが変わっていく仕組みになっています。速く動けばそれだけ回転数が上がって速くなり、ゆっくりと動けば映像もゆったりとなります。映像を回転させるスピードを上げていき、一定の早さに到達すると、やがてアニメーションのように定位置で滑らかに動いて見えます。
今回の展示は普段画廊で展示している絵画や工芸等の作品展とは異なり、インタラクティブ・メディアという映像を「身体を使って動かす」という参加型のものになっていったのがとても新鮮で興味深く、多くの方が体感して楽しんでおられました。
来場した方はまず会場入口に展示してあるアナログのゾエトロープを動かして原理を知ってもらい、奥のコーナーに入ってキネクトという赤外線センサーで来場者の身体の動きを信号に変換し、PCでプロジェクターから映し出されるバーチャルゾエトロープの回転スピードを制御して体感してもらうようになっています。なので、スムーズにメディアアートの原点と最新バージョンの両方を楽しんでもらうことが出来るようになっていました。
近年、プロジェクションマッピングなどのメディアアートは大変注目を集めています。当画廊は今までの良いもの・伝統的なものを大切にしながら、新しいジャンルの作品も積極的に取り入れていき、都心の画廊としての可能性を広げていきたいと考えています。それと共に、これからの美術界を担う若い世代のアーティストやクリエイター達を応援していきたいと思っています。これから更にどんな作品が登場し、どのように展開していくのが私たちスタッフにとっても楽しみです。